

とりもどそう！ 河北潟
泳げる湖、おいしい魚、安心して使える水

かほくがた

通信かほくがた vol.28-2
発行／NPO法人河北潟湖沼研究所
2023年3月31日

CONTENTS

河北潟カヌー体験イベント 1p
河北潟湖沼研究所
インターンシッププログラム 2p

その他活動報告 4p
田んぼの生きもの調査イベント
河北潟セミナー 講師：大高明史先生
「生きもの元気米」「七豊米」の稲刈り

河北潟カヌー体験・湖で活動

本活動は、エフピコ環境基金の助成を活用して実施しました。

2022年9月4日（日）、河北潟流域まるごと体験プログラムとして、今回は河北潟の湖面に出ました。お天気に恵まれ、波も穏やかででした。初めてカヌーに乗船する方や、お子さんもいましたが、津幡の水辺を守る会の岡山さんをはじめ、4名の方がサポートしてください、5歳の男の子もカヤックにのることができました。最初に準備運動、パドルの使い方を学び、湖面に出てからも少し練習してから徐々に広い水面へと進んでいきました。金腐川の砂嘴の先端付近で、宝達山を背景に記念撮影、そのあと金沢港防潮水門まで移動しました。広いところに出ると、魚が勢いよく水面近くを走り、スズキやボラなどの大きな魚が何度も跳

ねて、河北潟の自然の醍醐味を感じました。防潮水門から帰りは、岸沿いにゴミの様子を確認し、無理のない範囲でゴミ拾いをおこないました。

内灘町在住の参加者より、「湖面から内灘砂丘を見るのは初めてで、とても美しいことに感動した。」といった感想が聞かれました。昨年も参加した小学生の男の子からは、「岸に近づいたらゴミがたくさんあって汚かった。」といった感想も聞かれ、人間の不始末でゴミが岸辺に溜まっている様子は、残念でなりません。波に流されて、ヒメガマなどの植物があるところにゴミが漂着している様子がうかがえ、抽水植物のすきまに多くのゴミが見られました。

インターンシップ プログラムの実施

環境NPOの仕事を体験いただくインターンシッププログラムを2022年8月に11回実施し、7名が参加しました。9月以降も2名より希望があり、田んぼの活動や河北潟自然再生まつり、マルシェの活動等に参加いただきました。

NPOの仕事に関心のある方が参加されることで、個々の取り組みの目的や、その背景にある問題点等をしっかり伝えることができ、そうした情報を共有したうえでスタッフとして活動に参加いただくことができました。そのことで、インターン生の参加は活動の大きな助けになりました。受け入れ側としては、インターンシップという限られた時間の中で経験いただくために、力が抜けないところもあります。今回、プログラム内容を事前にWebに明示したことで、活動に関心のある人たちに情報が届きました。希望いただいたプログラムをぶじ進めることができて良かったです。

(文：川原奈苗)

田んぼの生きもの調査

「生きもの元気米」の田んぼごとの陸生昆虫類と植物の調査をおこないました。



無農薬野菜の畑作業

農薬不使用、多品種少量生産をすすめている「すずめ野菜」の畑作業をおこないました。



無農薬野菜の生産から販売まで

午前中の畑作業、収穫、梱包、「金沢駅西ゆぐれ金曜マルシェ」での直接販売を経験いただきました。この生産から販売までの活動は、インターン生に人気があり、複数の方が何回も参加されました。



田んぼの除草活動

雑草がはびこる農薬不使用の田んぼの状態を確認するとともに、除草活動をおこないました。



ハッタミミズの保全活動

水生動物調査と除草活動

ハッタミミズを守るための田んぼの維持管理活動と、ハッタミミズの観察、そのほかの水生動物を調べる活動をおこないました。



中・上流域の川のイベント

河北潟の流入河川の能瀬川と津幡川の支流の明神川で親子参加のイベントをおこないました。湖とつながる川の環境とそこに生息する魚や水生動物を、色々な方法で採集して観察しました。



幹線排水路の植生断面図作成調査

河北潟農地防災事業により、ヨシ原が消失したことから本事業の環境配慮対策について、関係者と意見交換を進めており、その場所において、ヨシ原消失箇所と、ヨシ原が残っている箇所で、今後状況を確認していくための植生断面図作成調査

をおこないました。



河北潟流域ゴミ調査

河北潟の湖岸の6地点でゴミの状況を記録し、地点ごとに湖岸の土を採取し、細かなゴミの状態も調べました。



*中流域の川のイベントは、地球環境基金の助成金を活用して実施しました。

*河北潟流域ゴミ調査は、2021年よりエフピコ環境基金の助成を受けています。

七豊米の田んぼで 生きもの調査イベント

七豊米の田んぼで7月24日の午前中に、田んぼの生きもの調査イベントをおこないました。今回は遠く青森県から、弘前大学名誉教授の大高明史先生が来てくださり、田んぼにすむ水生貧毛類（イトミミズ類）を重点的に観察することができました。気温は30.3℃、用水路の温度は21.9℃、用水の水が流れ込んでいる泥の中は冷んやりしていたので助かりました。

大高先生より田んぼに生息する水生貧毛類（イトミミズ類）のお話をお聞きして、興味が深まったところで各自で泥を採集して泥の中にある生きものを確認しました。水田でよくみられる貧毛類ベスト4のお話では、それぞれの特徴も伝えられ、小さくても色々な違いがあることがわかりました。また石川県ではあまり調べられていないことから県内初記録になるかもしれないとのことで、ミミズを捕まえようという意欲も高まりました。泥の中から小さくて細いミミズ類を捕まえることは難しいですが、先生にやり方を教わると、子どもたちも上手に拾い出していました。簡易顕微鏡でエラミミズの鰓の様子なども確認でき、今回は生物や環境に詳しい先生がたくさん参加され、子どもたちの興味にあわせて先生方がサポートくださってとても良いイベントとなりました。



河北潟セミナー 講師 大高明史先生

7月24日の18時から、河北潟セミナーを開催しました。「ザリガニに共生するヒルミミズ類の自然史」と題して、大高先生よりお話いただきました。この日は朝からイベント、午後は湖での調査、夕方からセミナーとハードスケジュールとなってしまいました。

大高先生ありがとうございました。

地球環境基金の助成を活用して実施しました。

「生きもの元気米」KFu96稲刈り

9月7日にKFu96の稲刈りをおこないました。今年は6月から農作業のボランティアに参加くださっている方と、インターンシップに来られた学生さん、理事長とスタッフ3名の計6名で作業をおこないました。お天気に恵まれたこともあり、これまでで一番短時間で夕方には作業を終えることができました。



「七豊米」稲刈り

9月23日～25日に3枚の田んぼの稲刈りをしました。初日と2日目の午前中は雨でしたが、最終日は朝から気持ちの良い青空となりました。今年も大勢の協力により稲架干しできました。今回は、「生きもの元気米・KFu96」の田んぼの収穫が早めに終わりましたので、軽トラックで稲を運んでその稲架場にも干しました。子どもたちが元気いっぱい稲を運んで、大人も元気をもらって楽しく作業できました。



編集後記

河北潟の湖面に出る体験活動を今後も続けていこうと、岡山さんの協力をいただいて、河北潟湖沼研究所でも中古カヤックを購入しました。夏の終わりは、野鳥の重要な繁殖期も終わる時季のため、気楽に湖であそぶことができます。(N)